

第102号  
平成29年  
8月

HPに 創刊号から  
連載中

## もう一つの道

情報は、うのみにせず、注意  
深く徐々に試して下さい。

山田整骨院  
熊本市中央区出水 4-25-1  
096-364-7611

<http://yamadasu.com/>

熊本交通事故、山田整骨院  検索

<http://www.jiko-kumamoto.net/>

### 腹の健康(十八)・・・西勝造

西会会報 昭和21年3月号(敗戦後第一号)

#### 【第四章 宿便保留＝慢性便秘とその結果(一)の続き】

皮膚は、我々の尤も重要な浄化器官の一つである。そして、単に皮膚病と誤診される疾病を根治せんと試みることは、体外に出ようとしている毒素(それは患者が健康体であるからなのである)を再び体内に追込むことなのである。

石鹸や、その他の化粧品は、身体の表面即ち、皮膚を清潔ならしむることを容易にする。そして多分、その浄化作用を、更に心地よくするであらう。故に皮膚病が根本的には、腸内の毒素を、吸収して発生した場合には―――換言すれば、これ等の皮膚病が排泄作用の欠陥に基いて居る場合には―――きれいな容姿を得んとする努力は身体の内部に向かってなされねばならぬ。即ち健全に、活動する腸と、清潔な血液の適当な循環を得るように努力せねばならぬ。

我々は血液を浄化する為には、又、十分に酸素を得なければならぬ。酸素は新鮮な空気から得られるのである。戸外に出て運動をすると、肺臓は活発に活動するから、戸外運動こそ尤も重要である。猶ほそれのみならず、食事の問題も亦重要である。或る食物が、皮膚に悪い影響を及ぼすことは能く知られて居る。苺の嫌いな人もある、柿の嫌いな人もある、又、貝を食べると直ぐに皮膚一面に発疹する人もある。

その医学上の名称をプリーリッス・キューテニユース(Pruritus・Cutaneus 皮膚掻痒症)と云ふ疾患がある。それは体質が好まない貝類や、その他の含水炭素に富んだ甘藷の如き食物を多く摂取すると、忽ち起こるので、これを又、アレルギー(過敏症)とも云っているが、この疾患は食事の誤れることに基き、排泄作用が遅れるのである。然るに、この恐ろしく痒い疾病は、一個の独立した疾病と見なされ、そして、外科医が頼まれるものが多い、尤も皮膚科医が治せないのも慢性のものにしてしまつて結局、そんなことになるらしい。

この疾病は、多血質の人の間に比較的多い。そして、それが非常に烈しくなると、患者は、気が狂うことがある。この患者は、常に油類の食物をさげ、少なくとも一時は、アルコール、茶、コーヒー、等の様な刺激物は、さげなければならない。軽い食事を摂って冷水と温湯との交互浴即ち全身の温冷浴をすることと、生野菜食のみの食事法は、一番能く効くが、時節柄入手が困難であれば、玄米食に少量の生野菜食で治すより是非もないであろう。この際、断食療法は最良の方法であるが、更に多くの発疹の出ることを前以て覚悟しなければならぬ。

#### (二)

便秘から生ずる尤も普通の疾病の中には、消化器官の下部の、静脈充血である、これは最も厄介な疾病である。これを痔と云ふ。それは苦痛と不快感を引き起す。そして患者の意気を消沈せしむる作用を有するが爲に、患者は驚いて、手術によって速かに救われんことを求める。しかし、痔は私が以下簡単に述べるような保健的な方法で、治療する方がよろしい。そして痔疾は或る確定せる疾病の結果であると見做すがよい。

直腸の下部に於ける、血管は、可なり流通自在なものである。そして腸に糞便が溜まると身體を循環して居る血液が戻って来るのを妨げる。それ故に、習慣的便秘は、痔の尤も普通な原因であることは明らかである。妊娠も亦、痔の原因となる。然し、出産後は多く治るのが例である。

痔の他の原因の中には、腸の内容物を排泄するに際して、いきむといふ危険な習慣があると  
いふ事を述べねばならぬ。長時間立って居たり、腰かけたりすると、特にその人が常に健康上  
思はしくない体質であると、この疾病を誘導する。

肝臓も亦、この疾病の原因になることを忘れてはならない。何故ならば、肛門や、直腸から  
来る血液は肝臓へ主として戻される。そして若し、この器官が充血して居たり、或は又、有機  
的な疾病であったりすると、血液の自由な循環が妨げられる。そして、肛門に圧迫感がある。  
斯くして痔疾となるのである。

痔は大別して二種類ある、外痔と内痔である。前者は皮膚で掩はれて居り、後者は粘膜で掩  
はれて居る。外痔といふのは、それほどひどいものではない、又出血もしない。処が内痔は、  
特に排泄後出血するものである。ひどくなると、炎症が起り、そして痔はふくれて痛くなる。  
痔は脱垂する事がある、そして肛門の括約筋が働くから、肛門から下ると再び戻らなくなる。

病症がひどく進んでしまふ時以外には痔は、自然療法によって治療しても成功するものであ  
る。そして、この事は患者が各自抱かねばならぬ確信である。それは、どうするかと云ふに平  
面上に臀部を附けたまま上半身を 40 度位になし両腕にて支へ、更に両脚を一直線に伸ばした  
まま 30 度乃至 5 度位に傾斜せしめ両足を固定した儘丁字形に両脚を交互に捻る運動を行ふ、  
これは脚静脈を機械的に唧筒作用を起して痔静脈の血液循環を促さしめるのである。もっと進  
んだ自然療法としては脚絆療法がある。これは「症状は療法」なることを心得ないと、この脚  
絆療法実行中に心臓病患者は心臓の動悸をはやめることにより却って心臓病が治されること  
を知らずして悪化したものと思ひ違ふやうな観念思想の現行医学方針では応用は難しいが、こ  
の方法にて心臓鼓動のはやまるのは却って治る方へと働くものだと云ふことを思ひさへすれ  
ば、この療法が一番効果的である。

下剤薬はなるべくさけなければならぬ。何故なればそれを用いた結果は、必ずや有害であるか  
らだ。この私の意見が会員にとって偏見の現はれと思はれるといけない。そこで私は、腹部專  
門で有名な英国の外科医ジェー・ビー、ロックハルト、ママリ博士の意見を引用したいので  
ある。同氏はその教科書「直腸及び腸疾患」の中で、或る薬剤は却って痔疾を引き起すもので  
あると述べている。氏の意見によれば、これ等の痔疾にいけない薬剤の中で、尤も顕著なるも  
のの一つは、甘汞であると云ふ。少しの不便も感ぜず 軽微な内痔に罹っている患者が この  
甘汞を一度服用して、二三週間も非常に苦しんでいる、さう云ふ例が非常に多いと同博士は指  
摘している。甘汞によっては、出血さへもたらされる事があると云ふ。ロックハルト、ママリ  
博士は猶書き続けて曰く。

「便秘は確かに内痔の尤も普通な原因である。猶ほ便秘が直接にその原因ではないとしても、  
間接的には、痔疾に罹り易くなる傾向を有しているのである。その實例は實におびたしい  
云々。猶ほ博士は附言して云ふ、「便秘さへしなかつたならば、たとひ他に原因があつても、そ  
れは痔疾を引き起すには足りないのである」云々。つづく

## あ と が き

この号は昭和 21 年 3 月発行で、これを譲って下さった仙波知様が表紙に敗戦後第一号と書  
かれていました。そのため他のページにはポツダム宣言や戦死傷者、戦災者のことが載ってい  
ます。旧漢字で書かれていますので読みにくいと思いますが、歴史を体験してください。本  
文に痔のことが書いてあり苦痛と不快感を引き起すと記されていますが、じつは最近私がこれ  
を経験しました。ものすごく苦しく脂汗が出て死ぬ思いでした。経験者でないとは分かりませ  
ん。筆者の西勝造先生は 10 代の頃病弱でしたので、苦痛と不快感を体感されたのでこういう表現  
になったのではないかと推測します。この時血管が硬い人は血圧が急上昇し血管が破れ脳溢血  
を起こします。幸い私は日頃から温冷浴、毛管運動、柿茶で血管を柔らかくしていましたので、  
そうならず済みました。この号などをコピーしてネットに載せる所存です。